

埼玉県新型コロナウイルス専門家会議委員への意見照会（電子メール）の概要

1. 意見の回答日

令和2年12月14日（月）

2. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 医師

3. 照会事項

1 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく協力要請について

営業時間の短縮等の要請について、1都3県で足並みを揃えた対策が必要なことから、12月27日（日）午後12時まで延長することとしたい。

2 埼玉県におけるGo To Eatキャンペーンの取扱いについて

現行の取扱いを当面継続することとしたい。

4. 主な意見

1 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく協力要請について

○ 賛同する。時間短縮要請については首都圏でできる限り統一行動を取るべきである。（金井委員）

○ 賛同する。ただし、指定した地域以外に人の流入が促進される恐れがある。（川名委員）

○ 賛同する。飲食・会食や夜の街での感染が直接の原因というよりは、外出機会が多いことで接触の機会が増えていることが要因と考える。感染の

ピークを過ぎるまで延長すべきである。(光武委員)

- 賛同する。県民一人一人の行動が感染抑制の鍵を握っている。少人数の会食でも感染者がいれば感染してしまう。また、事業者に対しては、換気の必要性和クラスターを発生させない環境づくりを支援することが必要と考える。(坂木委員)

2 埼玉県における Go To Eat キャンペーン の取扱いについて

- 賛同する。テイクアウト、デリバリーへの移行を強く求める必要もあると考える。また、地域外から広範な人々が参集する食事は止める必要があると考える。(川名委員)
- 賛同する。東京都の「Go To トラベル」制限は1月11日までとあり、酒類の提供もそれに準ずるようになることも懸念される。(松田委員)
- 賛同する。Go To 自体で感染者が増加したというより、Go To という掛け声によって辛抱していた気持ちが外れてしまったことが感染者増加につながっていると考える。(光武委員)

3 全般に関する意見

- 家庭内感染が多くなり、そして高齢者の感染、重症者が増加してきた。家庭内感染を防ぐために県民に強いメッセージを出す必要があると考える。また、「うつらない」より「うつさない」に注意を払ってもらいたい。自分が感染者であるかもしれないと考えての行動をして欲しい。(金井委員、坂木委員)
- 検査機関も増えたことから異変を感じたら直ちに検査をして欲しい。これについても県民への強いメッセージが必要と考える。(金井委員)
- 重症病床 (ICU など) の使用割合の上昇が最も深刻だと考える。数値上は余裕があるように見えるが、ここでしっかり抑制しなければ年末年始に重症化した患者を受け入れる病床を探すのに難渋する、あるいは受け入れる病床が枯渇する可能性があると考え。(坂木委員)

【県の対応】

- 県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、上記のとおり従来の制限の継続要請を行った。(12月15日開催 第34回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。)